

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

| | | | | | | | |
|-----|-------------------------|---|------------------------------------|---|--------|---|--------|
| 名 称 | 第8期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会 | | | | | | |
| 日 時 | 平成30年2月16日(金)午後2時～4時10分 | | | | | | |
| 場 所 | 生涯学習センター 2階 一般研修室 | | | | | | |
| 出席者 | 委 員 | × | 岩井 浩 | ○ | 佐藤 翔 | ○ | 藤林 弘 |
| | | ○ | 内田 徹 | ○ | 佐藤 るり子 | ○ | 向山 ひろ子 |
| | | ○ | 奥西 隆三 | × | 杉本 厚夫 | ○ | 森川 知史 |
| | | ○ | 木村 孝 | ○ | 長積 仁 | ○ | 六嶋 由美子 |
| | | ○ | 切明 友子 | ○ | 西山 正一 | | |
| | | ○ | 小宮山 恭子 | ○ | 林 みその | | |
| | 事 務 局 | ○ | 藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長) | | | | |
| | | ○ | 福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長) | | | | |
| | | ○ | 安田 美樹(中央図書館長) | | | | |
| | | ○ | 林 達哉(中央図書館主幹(兼)図書係長) | | | | |
| | | ○ | 前田 暢(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹) | | | | |
| | | ○ | 高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査) | | | | |
| | | ○ | 野口 里佳(生涯学習課生涯学習係長) | | | | |
| | | ○ | 志賀 清泰(中央図書館図書係主任) | | | | |
| | | ○ | 粕谷 祐次(生涯学習課生涯学習係主任) | | | | |
| ○ | 太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任) | | | | | | |
| 傍聴者 | 1名 | | | | | | |

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第4回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1. 報告事項

➢ 平成29年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

(事務局)

平成30年1月19日(金)八幡市立生涯学習センターにて開催。「学び合い、支え合う社会教育の推進～協働参画社会の実現へ～」をテーマに、全体会では山城地方社会教育委員連絡協議会会長としての森川委員のあいさつ(テーマ説明)があり、その後3つの分科会に別れて課題提起、各分科会内でさらに4～5人の小グループに分かれてのラウンドテーブルが行われた。6名の委員が参加。第1分科会:木津川市「『木津川放課後子ども教室』視察体験、調査研究活動について」、第2分科会:井手町「『地域に根付き、音楽で人々を元気にする』～山吹ふれあいコンサート、12年間の実践から～」、第3分科会:相楽東部広域連合「『学び合い、支え合う社会教育の推進』～集う、つなく、未来へ～」。

(委員)

第1分科会で書記を担当した。ラウンドテーブルでは、課題提起をした方がいたので、その方を中心に議論が進んだ。ある校長先生が、学校ではこのような事業を受け入れる余裕がなく、「働き方改革」に抵触すると話していた。私は長岡京市の放課後子ども教室の手伝いをしているのでその話をしたが、否定的な意見を言われた。課題提起をした方は、それでも自分の思いを伝えていた。最後までその校長先生は、「放課後子ども教室は学校側の負担が多く、無理がある」と言い続けており、活動する側と学校側の壁の厚さを感じた。

(委員長)

学校開放事業などで学校側との壁をなくすようなものはたくさんあるのに、理念をどう共有していくかなどのお話ができないのは残念だ。

(委員)

同じく第1分科会で司会に当たっていたので、最初のあいさつで笑いを取り、場の雰囲気をもたらし、ラウンドテーブルでは、木津川市のまだ育友会もない新しい小学校での取り組みが話題になった。同じグループになった杉本委員が立ち上げに関わっておられ、近況を知りたくて参加されたという。HOP(放課後・おとな・プラン)をスローガンに、子どもの自主性を重んじ、「ありのままの自分」を出せるようにしたいと話しておられた。

(委員)

第2分科会に参加した。社会教育課の職員と社会教育委員が協力して立ち上げたもので、きっかけはオーボエコンサートで、地域の方が集まり、プロの演奏を町民にも聞いてもらいたいという思いだった。近隣の方にも来てもらい、1部は地域のコーラスサークルの発表、2部はプロの演奏や近隣で活躍されている方を呼んでの演奏、最後は合唱が行われる。地元サークルの発表の場となっており、幅広い年代の人々の交流の場でもある。当日の様子を動画を見て、楽しそうな様子を見たり、知り合いが出ていたりで驚いた。

(委員長)

長く続けると世代の交流もできてくるので、意味があると思う。

(委員)

第3分科会に参加した。相楽東部広域連合は、笠置町、和束町、南山城村が一緒になった社会教育委員の組織である。私は隣の自治体との関わりはほとんどないので、3つの町村が合同でやるのは大変だろうと感じた。「夕涼み会」というイベントを開催し、人形劇やコーラスの発表などがあったという。最近は全国大会はじめ、少人数のラウンドテーブルの開催が多いが、話しやすく仲良くなれるので、この形は良いと思う。

(委員)

さきほど出たように、「働き方改革」は学校内で問題となっている。学校と社会教育の連

携は長らくテーマになり、意識も広がってきているが、働きすぎの先生達をどうしていくかが問題になっている。我々が学校をどう支援するのか、先生達の状況をどう変えていくのか。「働き方改革」とぶつかることはないと思うのだが、そう思う校長もおられる。学校側に余裕がないのは、山城地方社会教育委員連絡協議会でも先生達と関わっているので、強く感じる。研修会についても検討している。我々社会教育委員がどう動いていくのか、最近では活動が広がってきているので、宇治市でも取組を進めていければと思う。

(委員長)

「働き方改革」については、難しいところだ。学校長であればなおさら考えないといけないのだろう。学校、家庭、地域のつながりの問題、子ども達の未来をどう育てていくのか、などについて我々も考え直していく時期かもしれない。

➤ **生涯学習関連事業調査について**

(事務局)

市民活動の支援、講座やイベント、人材養成、啓発・展示等、様々な手法で市民の学習活動を支援する取組を「生涯学習関連事業」として、全庁的な取組状況を調査・報告し、市民の自主的・主体的な学習活動が還元される、「社会還元」の推進を目指している。今回の調査は、平成28年度に実施した事業が対象で、合計250件であった。全事業は行政の関与度を基準に、A～Hの区分に分けられる。Aは補助金交付、情報提供等に留まるもの、Bは行政が指導、助言等のみを行う事業、Cは実行委員等の形式による市民協働事業、Dは人材を育成する事業、Eは参加・受講のみの事業(A～Dになる可能性のあるもの)、Fは参加・受講のみの事業、Gは啓発・展示事業、Hは環境整備支援。A～Eの事業については、「社会還元」の有無、数値・記述による評価を回答してもらい、F～Hの事業については、事業の概要と実施状況のみ把握している。一次調査集計後、BCDの事業のうち、モデルケースとなりうる事業をひとつずつ選び、二次調査として担当課への聞き取りを実施した。

調査結果を業務の改善につなげることができるよう、平成30年度からの変更で、これまで年に2回行っていた調査を一本化し、5月にまとめて前年度の自己点検と、当該年度の予定調査を行うこととした。前年度の見直しをしながら、反省点や改善点を当該年度の事業進行に活かし、PDCAサイクルのスムーズな循環を目指す。

(委員)

事業区分の説明について、「～に留まるもの」「～のみ行う事業」という言葉が多く使われているが、否定的に感じる。普通に「～に関わる事業」「～を行う事業」で良いのでは。

(事務局)

文言については、見直して、次回の調査までに整理する。

(委員)

「社会還元」のありなし以上に、該当しているかどうかの基準は何をもって、誰が判断

するのか。理念としてだけでなく、できているかどうかの基準があり、担当者が意識を持ってこそPDCAサイクルにつながる。

(事務局)

その都度担当課に聞き取りをしているが、教育振興基本計画に沿って、最終的には生涯学習課が判断する。例えば公民館まつりでは、学びの発表・発信、実行委員会の結成などがあり、ひとつの社会還元と考える。確かに担当課の職員に伝わらないと意味がない。

(委員長)

ある程度の判断基準を設けるのは必要だと思う。何をもって到達とするのか、担当者が替わってもできるように。基本計画がうまく進行しているのかの基準材料、判断材料にもなると思うので意識していただきたい。

➤ **宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について**

(事務局)

宇治市ジュニア文化賞、ジュニア文化奨励賞は、市内の小中学生及び高校生等の文化に関する意識の高揚や振興を図るため、文化活動に関して優秀な成績を収めた者または顕著な成果を挙げた者に対し表彰するもの。宇治市スポーツ賞は、体育・スポーツの普及振興及び競技力の向上を図るため、スポーツに関し優秀な成績を収めた者や体育・スポーツの健全な普及及び発展に貢献した者などに対し表彰を行うもの。今回のジュニア文化賞は4件、ジュニア文化奨励賞は2件が受賞、スポーツ賞は各賞合計3団体34名、37件が受賞となった。3月1日(木)文化センター開催の宇治市制記念式典で表彰式が行われる。

(委員長)

受賞で終わりではなく、受賞者がその後も宇治市の文化・スポーツに貢献していき、意識の浸透に寄与する存在になっていただけるような賞になればと思う。

2. 協議事項

➤ **(仮称)宇治市図書館事業計画(初案)に対するパブリックコメントの実施結果及び最終案について**

(事務局)

平成29年11月20日から12月19日まで実施した、パブリックコメント(以下パブコメ)の実施結果について、提出者26人(23人・3団体)から、119件の意見があった。うち本計画の修正に至ったものは7件であり、以下に示す。(は実施済、 は想定される取組)その他の意見も、今後の運営の参考にさせていただく。

- 「お茶のまち宇治ならではのお茶に関する資料を豊富に揃え、『お茶のことなら宇治市図書館に聞けばわかる。』そんなアピールのできる図書館であって欲しい。」との意見に対しては、本計画中に「お茶に関する資料を重点的に収集します。」の文言を追記。
- 「紫式部文学賞との関連から明治以来の女流文学者の全集を徹底的に収集して、特定

の分野に関してはどの図書館にも負けないと誇れるような図書館を目指してはどうか。」との意見に対しては、本計画中に「源氏物語に関する資料を重点的に収集します。」の文言を追記。

- 「市民が気軽に説明を受けることができる場をつくって欲しい。(同様の趣旨他3件)との意見に対しては、本計画中に「フロアワークを充実するなど気軽に声掛けができる環境づくりに努めます。」の下線部の文言を追記。
- 「市広報掲示板に(図書館の)ポスターを掲示するなど、潜在的な利用者にも、図書館に関する情報をPRしていく必要がある。」との意見に対しては、本計画中に「市の広報掲示板の活用等により、図書館を利用していない人等への情報発信に努めます。」の文言を追記。
- 「町内会や自治会やサークルに対して団体貸出を広げる。出張おはなし会にて貸出も実施。町内会や自治会の依頼があれば成人対象の『出張おはなし会』など本の紹介になる活動で居心地の良い空間を創っていく方法が効果的だと思う。」との意見に対しては、本計画中に「図書館外の出張おはなし会等において居心地の良い空間を創出します。」の文言を追記。
- 「具体的な取組(児童)『学校図書館と連携して児童の読書活動を支援します。』について、読書活動と書くと『読む楽しさに』に重点が置かれ『学ぶ喜びを創出』が弱くなってしまふ。学習力向上と読書の位置づけが必要である。」との意見に対しては、本計画中に「学校図書館と連携して児童の読書活動を支援します。」から「学校図書館と連携して読書の楽しみや学ぶ喜びを育てます。」に修正。
- 「デイジー図書はどのような図書かという説明文が必要である。」との意見に対しては、本計画中に注釈を加える。

(委員)

パブコメを受けての修正は適切だと思う。「年中無休に」など実現できないものや、あまりにも具体的なものは計画に入れる項目ではない。ハード面にはふれられないという前提のもと、適切に選ばれている。特に5つめの館外における快適な空間づくりは良いと思う。

(委員)

初めて聞いたが、デイジー図書とはどういうものか。

(事務局)

「視覚障害者や通常の印刷物を読むことが困難な人のためのデジタル録音図書をいう。」との注釈を加えている。

(委員長)

パブコメを出された人は、様々な思いを持って書いたのだろう。修正した箇所は、「～に努めます」などの表現なので、プロセスが見えず、無味乾燥に取られがちだが、計画の文言は簡潔にするものなので、パブコメをおざなりにしていることはないと思う。

(委員)

「レファレンス」はデパートでいうとインフォメーションのようなものと理解して良いか。カッコして日本語で書くなどできないか、うまく伝わる日本語はないものか。

(委員長)

「レファレンス」はこの言葉のまま浸透してほしい。図書館のウリになるサービスだ。

(委員)

しかしこの言葉が使われてから80年以上経つが、浸透していないというのも問題だ。何と言い換えれば良いだろうか。デイジー図書のように注釈を付すか。

(委員)

「人と本をつなぐ仕事」という風に言われてきたが、どうつなぐかが大切だ。レファレンス能力の高い方がいる図書館には行きたくなる。

(委員)

先に日本語で説明して、かっこで「レファレンス」と書いてはどうか。

(委員長)

デイジーと同様に注釈を入れるのが良いと思う。80年も使われていたとは知らなかった。

(事務局)

注釈の挿入を調整します。

(委員)

1月21日(日)に中央図書館で防災講座の講師をし、30人ほど参加があった。中央図書館と危機管理課が共催であった。ひとつのテーマに、複数の部署が一緒にやるというのは、市民も評価すると思う。私は講演で「行政に頼りすぎてはいけない」と言っている。災害時には、市民と行政の協力は必要だと思う。図書館でも様々な催しが月に1回ぐらい行っていると知ったが、広報の戦略も必要だ。中央図書館は駐車場が広く、他の2館よりも使いやすいので、この利点を活かしてほしい。

(事務局)

他の部署とのコラボ事業についても、ごみ減量推進課との脱出ゲームや、認知症に関する事業など毎月何かの企画を開催している。今回の計画でも少しふれている。

(委員長)

図書館は文化・知の拠点として、様々な部署と連携することで、価値が高まる。ハードで対応できないところはソフトで対応し、充実できれば良いと思う。

(事務局)

今後のスケジュールについて、3月6日の議会報告、その後、3月27日の教育委員会報告を経て、みなさんに冊子の形で届けられると考えている。

(委員)

計画はできるまでも大変だが、できてからも運営のチェックが重要になってくる。来年度以降になると思うが、引き続き当審議会で進行管理をお願いしたい。

(事務局)

他の計画の進行管理のように、当審議会で議題にしていく。点検・評価、計画期間ごとに利用者アンケートも実施する予定。

➤ 第25回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ2018」について

(事務局)

平成30年2月3日(土)・4日(日)10~15時、生涯学習センター全館にて開催。当日は約1,300人が参加された。42団体・個人(46コーナー)が出展し、うち初出展者は7団体・個人で、人材バンク登録者は11団体・個人であった。今回は初日の前半は来場者が少なかったが、2日目の午後も多かった。

(委員)

2月4日(日)に、今回初めて、生涯学習審議会として出展をした。当日も多くの委員が来てくれて良かった。1月に3回の打合せを行い、様々なアイデアが出て、学生時代の文化祭のような雰囲気を楽しめた。当日は2枚のパネル展示をし、1枚目は審議会と委員の紹介で、みなさんに送ってもらった写真も良かった。2枚目は「こんなまちになってほしい宇治」として、桜の木の絵に花びらのふせんで意見や要望を書いて貼ってもらった。当日は良い天気でもあり、大人62名、子ども28名の合計90件のふせんを貼ってもらった。小学校6年生の子がイラスト付きのメッセージをさっと書いてくれて、感心した。「優しいまち」「元気なまち」などが多かった。呼び込みし、書いてもらいながら「実現できるかはわからないが、必ずみなさんの声を行政に届けます」と説明した。来年以降は何をやるのか、これを活かして挑戦できたらと思う。みなさんと一緒にやっていきたい。

(委員)

久々のまなびんぐ参加だった。みなさんペンを持つと、迷い無くすらすらと書いてくれたので、日ごろから考えているのだなと思った。市民と接する機会は必要だと感じた。

(委員)

楽しくパネルを作ることができた。当日2階、3階もペンとふせんを持って回って、他の出展者にも書いてもらった。みなさん宇治市にこうなってほしいという思いを持ってもらえるが、どこに言えばよいのか、言っても実現できないだろうと思っているのかなと感

じた。書いてくれるということは関心があるということ。紹介パネルの方はあまり見てくれなかったが、ある若い女性がじっくり見てURLも控えてくれていた。仕掛けながら勉強になった。知り合いにも5,6人会えたので、ふせんに書いてもらった。

(委員)

準備段階では手伝えなかったが、当日は参加できた。第1ホールに入る人にまず声をかけて、出てきた時にもう一回声をかけると書いてくれるパターンが多かった。必ず通るところなので、場所は良かった。うまく視線を合わせて話しかけるとか、つぶやいた言葉をそのまま書いてもらったこともあった。いろいろと参考になった。

(委員)

剣道着を着た委員の写真が好評だった。みなさん笑顔の写真なので、私ももっと笑えば良かった。背景もうまく使い、自分の特技や活動をアピールすることもできると思った。写真も四角ではなく、丸くして、見やすかった。次年度以降もまた、何らかの形で広報していきたい。この90もの意見をジャンル分けしてもらい、今後の参考にしたい。

(委員)

当日私も参加した。呼び込みは3人の委員がやってくれていたもので、私は全体を見て回って楽しませてもらった。よさこいの踊りは、もう少し広い空間があればと思った。

(委員)

まなびんぐは初参加だった。3人の呼びかけは来られた方に優しく対応し、コメントを書いてもらうという感じで、素晴らしかった。当初、プロジェクトなどで動画を流したらという案があったが、同じことをしているブースがあった。しかし、何を流しているかよくわからなかったもので、そこにはあまり人が集まっていなかった。今回参加してみて、知り合いが増えた。つながりができたので、今後も何かできればと思う。

(委員)

準備等では何もできなかったもので、当日少し見に行った。誰もが通るところなので、場所は1階で良かったと思う。桜の木のパネルを、カメラで撮ってしっかり読んだが、様々なメッセージがあり、こういうところに我々の審議会の大事なテーマがあるのではと思った。ジャンル別にまとめると、市民の声が聞こえてくるのではないか。

(委員)

確かに、2階3階はあまり長く滞在できなさそうな雰囲気だった。

(委員)

ドアがあるので、開けるとつかまってしまいそうで、少し躊躇してしまう。ひらけた広い空間の方が、人がたくさんいるところが見えて、良いと思う。

(委員)

実行委員として、あまり審議会の出展には行けなかったが、見るたびに花びらのふせんが増えていて、最後は満開になって良かった。3回の打合せ・準備に参加しての感想は、交流ができて楽しかったし、また来年も何かできたらと思う。

地域のイベントなどでは、主催者もボランティアも高齢化していて、まなびんぐの実行委員も同様なので、当日楽しみたいが疲れてしまう。学生など若い人が当日ボランティアだけでも来てほしい。活動している方々の手助け、サポートやパイプ役などができたら、実行委員やボランティアを支えられるのではないかと思った。

(委員長)

今回出展するにあたって、3段階のステップを考えた。今回はまず「認知」の段階。これはずっと続けていく必要があるが、他の団体とのつながりなどが次の段階「関係性の構築」につながる。次年度は認知プラス、審議会と他の何かが一緒になって、最後は「具体的な変革・行動」に至る。アクションを起こすことは重要だが、何か具体的なことをしていくプロセスも重要。このまなびんぐの企画そのものにも、我々がどう貢献できるか。

(委員)

私はこれまで声かけばかりしていたが、こういう形で実践できて大変嬉しい。今回はうまく関われなかったが、委員長の言ったとおり進めていただければ良い。この場で議論するだけでなく、生涯学習審議会という名前で外に出て行動し、広く市民に伝えられる機会を作っていければ良い。私もぜひ、参加していきたい。今回の行動はこの審議会にとっても、非常にエポックメイキングなできごとだったと思う。

(委員)

当日アンケートで、我々への意見や助言など、何か無かったか。

(事務局)

アンケートでは特に無かったが、他の出展者から、審議会のコーナーでの、呼びかけながら説明して書いてもらう方法がうまいとの声を聞いた。積極的に声をかけ、場所も良かったが、その利点を最大限に活かしておられた。

(委員長)

今回はかなり急な展開で時間的な余裕もなかったので、次年度に向けては、ゆっくりと準備を進めて、計画的にやっていければと思う。

3. その他

➤ 平成30年度宇治市教育の重点「社会教育の重点」について

(事務局)

現在次年度版の作成をしている。別途送付予定の案に意見があればいただきたい。

➤ 平成29年度宇治市生涯学習人材バンク研修会について

(事務局)

平成30年2月21日(水)18時、生涯学習センターで開催。対象者は登録講師及び関心のある方。今回は当審議会の長積委員長に講師、西山委員に対談者として出演いただく。

(委員)

市立中学校の「宇治学」で、人材バンクを活用して講師を探してもらいたい。

➤ 宇治公民館閉館後の利用調整について

(事務局)

2月1日現在の利用先調整の状況について、「調整済み」41団体、「利用者が独自に調整済み」23団体、「利用者及び生涯学習課で調整中」6団体、「解散」2団体、「未調整」1団体である。今後も状況を報告していく。

(委員)

今回発行された「社教情報」誌に、財源の確保と収支について全国的な調査の結果が掲載されている。国は社会教育を進めるよう言っているが、資金は先細りの状態である。

(委員)

宇治市内の公共施設の利用料は上がるのか。

(事務局)

これから議会での審議となる予定だが、通れば来年度以降、進めていくことになる。

(委員長)

公共サービスの定義についても考え、受益者負担も視野に入れていかなければならない。

(委員)

宇治公民館利用団体で、有料施設に移る団体もあるのか。

(事務局)

ある。生涯学習センターに移る団体などが該当する。

• 最後に

(委員長職務代理)

今回もたくさんのご意見・感想いただいた。今後もこの流れで審議を進めていきたい。

<次回の会議について>

平成30年4月20日(金)午後2時00分から 生涯学習センターにて